

説教題「初めの愛から離れてしまった」

聖書 黙示録 2章 1-7節

説教者 栗原喜義師

本日はヨハネの黙示録から「初めの愛から離れてしまった」と題しまして聖書のお言葉を聴きます。2章 1-7節はエペソの教会への主のおことばです。エペソは小アジア（今のトルコ）の西海岸にある都市でローマ帝国のアジヤ州の首都です。そのエペソにパウロは福音を宣教しエペソ教会が誕生しました。エペソの教会は「主イエスに対する信仰と聖徒に対する愛」で広く知られていた教会でした。主は4つのことを語られています。

賞賛

教会はキリストのからだです。エペソの教会の兄弟姉妹たちはイエス様を信じ、救われ、聖霊に助けられ、喜びに満たされ、御国の民として福音宣教の使命に励みました。主は「わたしは、あなたの行い、あなたの労苦と忍耐を知っている。使徒と自称している者が偽り者であることを見抜いたことも知っている」と賞賛しています。教会には主にある愛のわざ～よきサマリヤ人のような隣人に対する優しさが見られました。迫害の中での宣教の「労苦」を惜しみませんでした。また信仰の試練にもよく耐え忍びました。教会に忍び込んできた「偽善」に対してもみことばに堅く立って懸命に戦いました。

叱責

主は「あなたは初めの愛から離れてしまった」と教会を叱責されておられます。教会を愛しているからです。「どこから落ちたか思い起こし、悔い改めて初めの行いをしなさい。悔い改めないなら、わたしはあなたのごところに行って、あなたの燭台をその場所から取り除く」と宣言されています。イエス様は「十字架の愛」に立ち帰るように願っておられます。教会は偽善と戦ううちに、気づかないうちに神様の恵みとあわれみ、愛によって救われた自分たちであることを忘れ、十字架の愛から離れ、隣人への思いやりがおろそかになり、人をさばき、高ぶる者になっていたのではないのでしょうか。悔い改めないならば、教会が愛のない道をたどるならば、もはや教会ではないと主は厳しく忠告されています。悔い改めましょう。主には豊かな赦しがあります。

悪しき行いと戦い

主は教会が悔い改め赦しをいただき、愛に立ち返った後も、続けて戦い、労苦するよう励ましておられます。教会には異端と思われる教えがあったのです。ニコライ派と言われる人たちの教えです。主はすべての人が救われることを望んでおられますがニコライ派の人たちの行いを憎んでいました。私たちの戦いは血肉に対する戦いではありません。主は主の愛から切り離そうとするサタンとの戦いをともに戦ってくださいます。

約束

7節に「耳のある者は聞きなさい。勝利を得る者には、わたしはいのちの木から食べることを許す。」と約束してくださっています。主は教会の歩みを「私たちの選択」に委ねられています。主は主に聴き従うことを求めておられます。主は十字架におかかりくださり、よみがえられ、死とサタンに勝利されました。教会の群れには多くの戦いがありますが「わたしはすでに世に勝っている」と主は宣言されました。主は勝利を得る者には神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べることを許してくださっています。聖徒として、聖徒の群れとして、主のお言葉にとどまり、神を愛し、隣人を愛し、死に至るまで忠実に歩み、永遠いのちの恵みにあずらせていただきます。

結論

教会は主の十字架の血潮によって贖われた群れです。救いの恵み、喜び、愛を忘れることなく神様に心から感謝し、互いに愛し合い、聖霊の助けをいただいて、主の福音を宣べ伝えさせていただきます。